

# 語り継ぐ平和への思い

特集

## ～戦争の残酷さを伝承する～

終戦からことしで74年。長い年月が過ぎた現在も、多くの方が、かつての戦争で負った体や心の傷、あるいは家族を亡くした悔しさや悲しさなど、消えることのない苦しみを背負い続けています。今回は、海軍兵として戦地に赴いた谷川又四郎さんに、戦争の様子や当時感じたことなどを、記憶をたどりながらお話いただきました。皆さんも命の尊さ・平和の大切さについて考えてみましょう。



たにかわ またしろう  
谷川 又四郎 さん  
(98歳・川西町)

### 海軍へ入隊

谷川さんは、川西町で、谷川家の7人兄弟の次男として生を受けました。高尋常高等学校を卒業後、谷川さんは、福岡県北九州市にある八幡製鉄所で働き始めます。その5年後、20歳になった谷川さんは徴兵検査を受けます。当時の日本では、20歳に達した成人男子は全員徴兵検査を受ける事が義務付けられていました。検査を受けた谷川さんは、昭和16年1月、海軍兵として呉海兵団に入団しました。

### 過酷な訓練と初めての戦闘

入団後、約半年間の訓練を終えた谷川さんは、駆逐艦「初雪」へ配属となり、艦隊訓練を受けます。暑く狭苦しい船内での訓練は過酷で、さらに波の揺れで酔いにもなり、10日間ほどは食べたものを全て吐き出していったそうです。過酷な艦隊訓練を終えた谷川さんは、「初雪」に乗り込み、南方（現在のシンガポール）の戦地へ向かいます。南進を続ける昭和17年1月、谷川さんは、マレー半島南部の沖合でオーストラリア海軍・

### 必死の脱出

イギリス海軍の連合艦隊と初めての戦闘を迎えます。水雷科に配属されていた谷川さんは、魚雷で応戦し、敵艦隊を撃退。その後も日本軍は侵略を続け、シンガポールを攻略します。この頃の日本軍は連戦連勝、谷川さんは「戦争とはこんなものか」と感じていたそうです。この時までは…。

中に引き込まれるため、急いで船から離れなければなりません。それでも谷川さんは上官の命により、重要書類の入ったかばんと軍刀を回収しなければなりません。なんとか回収し終えると、次はボートを下ろし、まずは上官たちを避難させ、それから自身は海に飛び込みました。

必死に泳いで逃げる谷川さんたちに、今度は、米軍航空機の機銃掃射が降り掛かりました。被弾を避けるため慌てて海に潜りましたが、息をすため海面に浮かび上がるとき、沈む船から漏れ出した重油で顔や体が油だらけとな

り、まさに地獄絵図の様相でした。

米軍機が去った後、谷川さんは仲間の船に救助され幸運にも助かりましたが、一緒に乗っていた同郷の知人がいないことに気がつきました。知人の遺体が浮いてこないか、遺品を持って帰れないかと一週間ほど海を探しましたが、何も見つけれなかったそうです。

この空襲で、船員240人中80人が即死。「多くの命が一瞬にして奪われる戦争は、もう絶対にしてはならない！」谷川さんはこの時を振り返り言います。

### 生きて帰ることに

谷川さんは、その後も海兵として他の船に乗り、何度も危ない場面に出くわし、終戦後もオーストラリア軍の捕虜となるなど、大変辛い思いをしたそうです。

捕虜として約1年を過ごした昭和21年6月、ようやく日本へ帰ることができました。庄原へ着き、高駅を降りると、近所の人が「生きとったんか！」と大変驚き、「もう生きて帰ってこない」と思っていたご家族も涙ながらに喜んでたそうです。

### 私たちができること

「戦争は命の奪い合い、どんな思い・目的があろうとすべきではない」「戦闘だけではなく、マラリアやデング熱などの病気で命を失う人もいた」「辛い記憶だが、後生に伝えていかなければならない」。最後に、谷川さんはこう話してくださいました。

終戦から70年以上経過した現在、当時の様子を知る人が少なくなっています。苦しい思い、悲しい思い、怖い思いをした人たちがいることを忘れ、かつて犯した過ちを再び

繰り返すようなことがあってはいけません。

そのためにも、当時を知る人の話を聴き、感じ、考え、後生へ伝えていくことが必要ではないでしょうか。私たちが今「できること」「すべきこと」を改めて考えてみましょう。



### 令和元年度 庄原市戦没者追悼式並びに平和祈念式典

本市の戦没者に哀悼の意を表すとともに、再び戦争の惨禍を繰り返すことのないよう、恒久平和を祈念するため、庄原市戦没者追悼式並びに平和祈念式典を開催します。多くの皆さんの参加をお願いします。(申し込みは不要です。)

とき：8月21日(水)10時～  
ところ：庄原市民会館

※当日は要約筆記による案内に加え、イントラネットでの中継も行いますので、各学校、自治振興センターなどでもご覧いただけます。

※各支所から送迎バスを運行します。利用希望の方は8月13日(火)までに各支所に申し込んでください。(定員に限りがありますので、ご希望に添えない場合はご了承ください。)

### 問い合わせ

- 社会福祉課障害者福祉係 ☎0824-73-1210
- 西城支所地域振興室 ☎0824-82-2202
- 東城支所市民生活室 ☎08477-2-5131
- 口和支所地域振興室 ☎0824-87-2112
- 高野支所地域振興室 ☎0824-86-2115
- 比和支所地域振興室 ☎0824-85-3001
- 総領支所地域振興室 ☎0824-88-3063

※9月10日(火)～17日(火)、市役所本庁舎1階市民ホールで、戦争の悲惨さを伝え、平和の大切さを見つめなおす機会にさせていただくことを目的に、「折り鶴」や「戦中・戦後の人々の暮らしを紹介したパネル」などを展示しますので、ぜひご来場ください。